

## 20 株式会社湧玉製薬

### 需要が拡大するサプリメント製造需要に対応する生産体制の確立

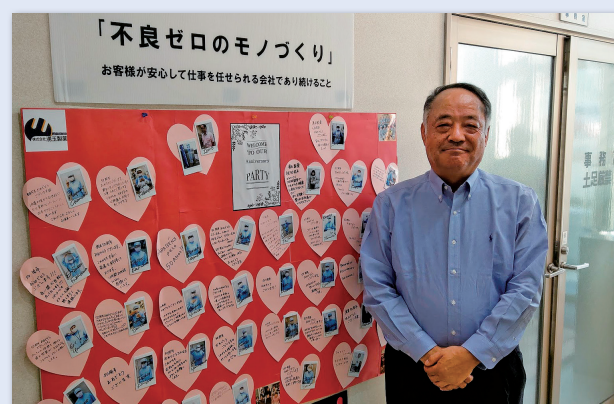


#### 会社概要

- 社 名：株式会社湧玉製薬
- 代 表 者 名：代表取締役 磯野誠治
- 所 在 地：〒418-0051 富士宮市淀師1565
- 取 材 地：同所在地
- 設 立 年 月：昭和44年10月
- 業 種：食料品製造業
- 資 本 金：10,000千円
- T E L：0544-23-0627
- U R L：<http://www.wakutama.co.jp/>



#### 取り組みの経緯



50周年記念ポスターと磯野代表取締役

#### 県内でも希少な梱包専門企業 新規顧客の獲得を狙う

富士宮市淀師に位置する株式会社湧玉製薬は県内でも数少ない健康食品の梱包専門企業だ。アルミパウチ、PTP包装、ボトル包装、三方シールといった多岐にわたる薬剤の梱包を取り扱っている。同社の特徴として、代表取締役である磯野氏が産業用機械等の扱いに長けており、独自のカスタムをすることで、有機的な生産体制の構築が可能となっている。

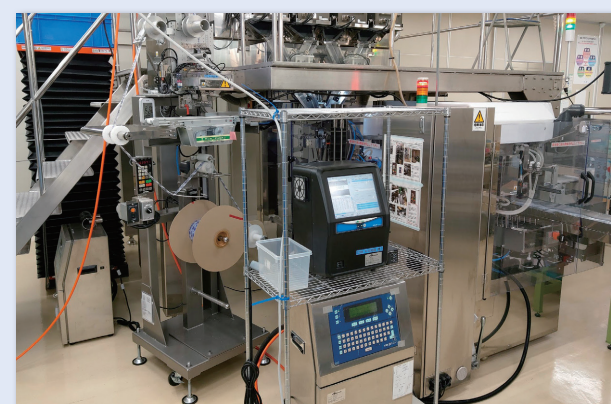
生産性の高さから、主要取引先からの絶大な信用を得ている同社だが、生産量の増加に伴い、細分化された客先注文に対応した、段取り替えに時間を要してしまうのが現状であった。

また、今後国際的な品質基準であるGMP (Good Manufacturing Practice) の取得や、積極的な新規受注、販路拡大を目指す同社にとって、効率的な梱包ラインの整備や生産体制の確立は避けては通れない課題であった。

#### 事業の概要

近年、一般大衆に広く普及した健康食品の文化。株式会社湧玉製薬はサプリメントに特化した“梱包の専門会社”である。お客様の望まれる生産量、多様な規格への対応、歩留まりの良さ、そして一定品質にて生産し続けるために、同社では、充填機及びその周辺設備の導入により生産効率の向上と取引先の拡大に挑んだ。

#### 取り組みの内容



導入した薬剤充填機により生産量も増加

#### 生産力の強化に向けて 機械と人を活かす環境整備

生産体制の見直しに当たり、同社が考えたのは梱包の要であるレーンの増設であった。同社が保有している充填機のフィーダーレーンは3つであり、生産量の絶対的な上限が課題となっていた。そこで新たに導入する機会のフィーダーレーンを4つとすることで、生産量の底上げを図ることとした。また、多岐にわたる製品を取り扱うため、薬剤の種類、梱包仕様に合わせた段取りや切り替え作業に時間を要していた。導入する充填機の選定にあたっては、作業内容を記憶、呼び出し可能な点も大きな要素となった。

さらにハード面だけでなく人材の高度化にも積極的に取り組んだ。過去のデータの蓄積を機械自身で行うことにより、女性でも簡単に品種の切り替え作業ができるようになった。ライン作業員で切り替え作業を行うことにより、正確にそして効率的にラインを稼働することができ、生産量増加に向け改善することができた。「既存の従業員に機械操作を覚えてもらい、自分たちでモノづくりしていくことを意識付けしました。責任を持って働くことにより、女性が長く働けるような環境づくりをしていきました。」と現場で指揮を執る柴澤氏は語った。

#### 結 果



検査機は1台で計量・金探に対応

#### 生産工程のブラッシュアップ 同業他社にはない強みを磨く

補助金を活用した充填機は、製造時間の短縮に大きく貢献した。設定変更等で段取り替えに要していた時間は20分から10分でと2/1に短縮。時間当たりの生産量は1.3倍に向上した。さらに、導入機械にはサーボモーターが付いており、機械制御を原因とする圧着ズレや袋の潰れがなくなり、機械の回転数が46rpmから50rpmへと上昇した。生産量は月間にして120袋となり、従来比1.3倍となっている。

また、生産量の図化に伴い必要とされた画像検査機、金属探知機、乾燥剤投入機についても、本事業で整備を図り、後工程における品質は向上し、不良率の改善を図ることに成功した。

「生産量が上がれば、梱包ラインや機械の改善、メンテナンスに割く余力も生まれますし、既存取引先の専用ラインだけでなく、新規顧客向けの幅広い対応が期待できます。」と磯野社長は将来の展望について語った。

同業他社にはない大量生産体制を武器に、市場拡大に向けて取り組んでいく。